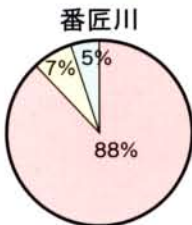
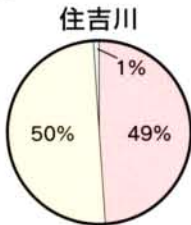
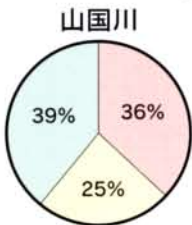
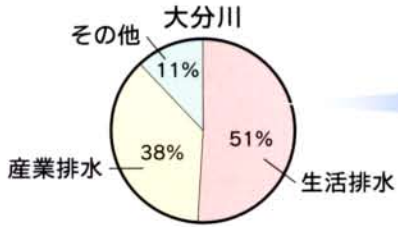
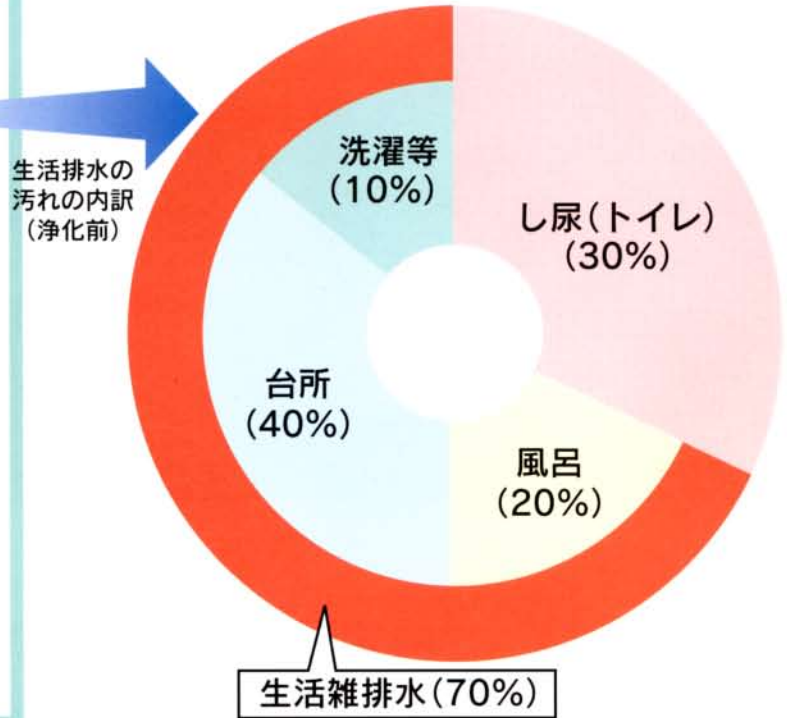


主な河川の汚れ



生活排水が主に川を汚している。

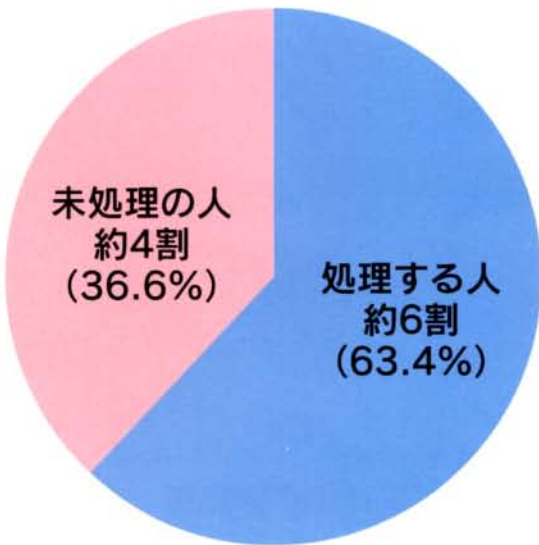


生活排水=家庭から出る全ての水
生活雑排水=生活排水からトイレの水を除いた水

汲取便所や単独処理浄化槽を使用している場合には約70%の汚れがそのまま川へ捨てられる可能性があります。

流す水 明日は自分に かえる水 (H19優良標語)

人口でみる生活雑排水の処理率 (H19末)



大分県では約4割の人の生活雑排水が浄化されずにそのまま川へ流れています。

こんな物が家庭排水の汚れの元になっています



使用済み天ぷら油



食べ残しのマヨネーズ



飲み残しの牛乳



飲み残しのビール



残飯の汁



米のとぎ汁

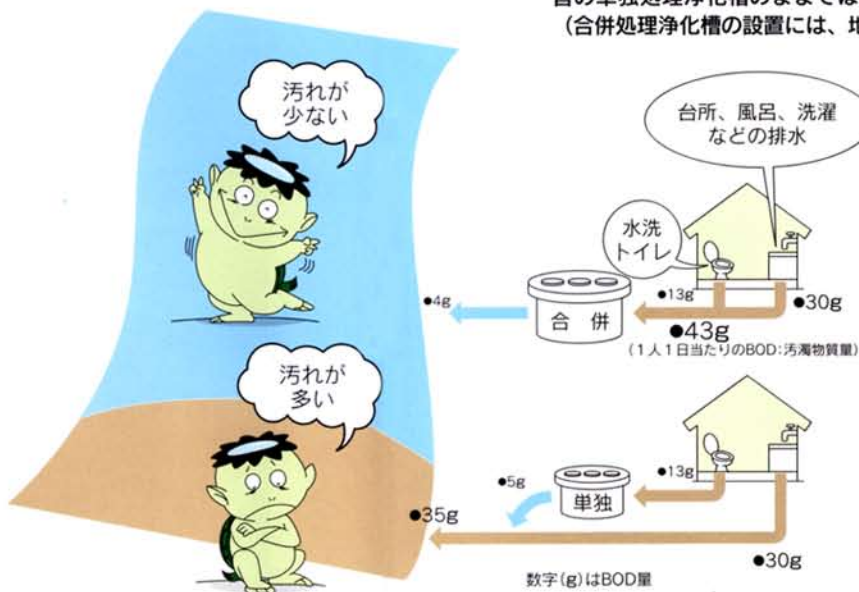


使いすぎのシャンプー



使いすぎの洗剤

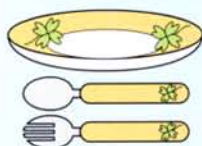
トイレの水とそのほかの水を一緒にきれいにする合併処理浄化槽を設置しましょう。
昔の単独処理浄化槽のままでは、トイレの水だけしかきれいにしていません。
(合併処理浄化槽の設置には、地域により補助制度があります。詳しくは市町村まで。)



合併処理浄化槽は維持管理が大切です。定期的に保守点検や清掃を実施しましょう。また、毎年1回知事が指定した検査機関による定期検査が義務づけられています。(維持管理に要する経費は自己負担です。詳しくは保健所まで)

ちょっとした工夫で川へ出て行く汚れを減らしましょう。
合併処理浄化槽や下水道を利用する家庭でも、元の汚れを減らせば出て行く汚れをもっと減らすことができます。

台所ではこんなこと



食事や飲み物は必要な分だけつくり、飲み物は飲みきれ的分だけ注ぐ。



水きり袋と三角コーナーを利用して、野菜の切りくずなどの細かいごみをキャッチ。

食器を洗う前に、油汚れなどはふき取ります。



残った油は継ぎ足して使ったり、炒め物に使うなど、できるだけ捨てない努力を。やむをえず捨てる際は新聞紙などに吸わせてから。



米のとぎ汁は植木の水やりに。養分を含んでいるので、よい肥料になります。



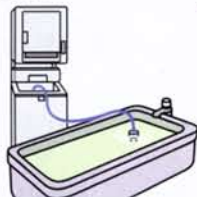
食器を洗うときは洗い桶を使用し、洗剤は適量を水で薄めて使います。

お風呂ではこんなこと



髪の毛などは排水口に目の細かいネットを張ってキャッチ。

シャンプー・リンスは適量を守りましょう。



お風呂の残り湯は洗濯に。温水なので汚れ落ちがよくなります(衛生上、すすぎは水道水で)。

洗濯ではこんなこと



洗剤は計量スプーンでしっかり計って。多く入れても汚れ落ちがよくなるわけはありません。



くす取りネットを取り付けて、細かいごみをキャッチ。

トイレではこんなこと



トイレは使用後にちょこちょこっと掃除しましょう。そうすれば、洗剤を使ってゴシゴシ掃除する回数はグーンと少なくてすみます。